



イケケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

第 601 回 誕生は、ママと赤ちゃんの奇跡のドラマ

2014.11.2

親・子・配偶者…このところ、相次いで親族同士の殺害事件が連続して起きている。かつて亀井静香なる人物は、「殺人事件の半分以上が親子兄弟夫婦の殺し。こんな国は日本だけだ」と言っていたが、真偽のほどはともかく、嫌なニュースである事、間違いない。

Facebook に「思わず涙する感動秘話」(<https://www.facebook.com/kandouhiwa>)というサイトがある。そこに『ある助産師さんのお話』が掲載されていた。その一部をご紹介します。

赤ちゃんを産むとき、陣痛というものがある。
陣痛は、初産で約 24 時間、2 人目以降で約 12 時間続くものらしい。
この陣痛がとても苦しいので、「産む側は大変、赤ちゃんは生まれてくる側でいいなあ」と言う方もいるらしい。
しかし、助産師さんはこれは大きな勘違いだと言う。
赤ちゃんの方が、妊婦さんの何倍も苦しいのだと。
実は、子宮は筋肉でありこれが収縮したり緩んだりするのが、陣痛の正体らしい。
陣痛が始まり、子宮が収縮すると赤ちゃんは首のところを思い切り締め付けられへその尾からの酸素が途絶え、息ができなくなるそうだ。
子宮の収縮は約1分間。その間思い切り首を締められ、息ができない。
1分たてばまた子宮はゆるむが、また陣痛が来れば1分、息ができなくなる。
しかも陣痛の間隔はだんだん狭くなる。
この陣痛に耐えられなければ、赤ちゃんは死ぬ。まさに命懸けだ。
実は、陣痛がおこるためには、陣痛をおこすホルモンが必要らしいのだがこのホルモンを出しているのは、お母さんではなく、なんと赤ちゃん自身。
赤ちゃんはとても賢く、自分自身で自分が、今陣痛に耐えられる体かを判断する。
そして、一番いいタイミングで自分の生まれてくる日を選ぶ。

出産予定日が遅れるのは、胎児自身が「今の体では陣痛に耐えられず死んでしまう」と判断しているからだそうだ。赤ちゃんはみんな、自分で判断して自分の意志で生まれてくる、すべての赤ちゃんは、その日を自ら選んで生まれてくるのである。
生死の狭間の中、あの小さな体で、胎児は必死に生きようと頑張っている。
正にこれは、母親にとっても赤ちゃんにとっても、すべてが「誕生の奇跡」かもしれない。

母親の力は偉大である。そしてそれは赤ちゃんによって支えられていた…
この文章を読んで、初めてそのことを知った。

生きる資格ゼロなんて…生きるのに資格なんて要らない、無駄な命などあるはずがない。
生きる勇気を再びもらう記念日が、誕生日。
毎回、何となく「お祝いパーティ」で過ごしてきた誕生日。
誕生日とは、こんな奇跡を思い出す日であると思った。